

令和4年度第4回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和4年10月14日（金）午前10時から11時50分

場所：白井市役所本庁舎4階大委員会室

出席者：【委員】

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、鎌田 元弘委員、手塚 崇子委員
飛田 毅委員、松本 千代子委員、中野 七生委員、宇賀 弘通委員
近藤 恭子委員、宇賀 博委員、酒井 啓史委員、福田 純子委員
若旅 千秋委員

【事務局】

池内企画政策課長、武藤主査、多納主任主事、高橋主任主事

傍聴者 なし

1. 開会

2. 議題

(1) 外部評価結果報告書（案）について

【会長】

議題1について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料1に沿って説明。

【会長】

今、事務局から、外部評価の結果報告書案ということで、主なポイントについて説明をいただきました。この審議会全体としての評価と、それから各委員の評価、それぞれ御覧のような形で掲載して、全て、市長はじめ、市民の方々に見ていただくということになっております。

今、一通り御確認をいただいたわけですが、39ページのところに、今年度、この外部評価を実施していただいて、それを踏まえた上の総括的な意見というものをまとめるところになっております。今日はこの総括的な意見というので、4事業、今回、外部評価をしていただいたわけですが、それを踏まえて、全体としてこうすべきだというふうな御意見がありましたら、そこを頂きたいと思います。

参考までに、39ページのところに、平成31年度に取りまとめた意見ということで、御覧のような御意見を取りまとめて、提出をしたというところがありますけれども、そのことも踏まえながら、総括的な意見として、今年度はどういうことを盛り込むべきかというこ

とで、御意見を頂戴したいと思います。どなたからでも構いませんので、今年度を踏まえた上で御意見頂戴できればと思います。

【委員】

私は、グループBでいろいろ、この2つの施策を議論させていただきまして感じましたのは、まず市で、例えば取組目標があって、その取組目標に対して幾つもの取組が具体的に列挙されていて、市としては、本当は、各取組の各事業がちゃんとそのとおり進んでいるのかというのを評価するのが本来の形なのかもしれませんが、私が参加しているグループ、皆さんの議論も、会長の総括も、この取組目標に対して、この具体的取組だけで十分なのかなと。

むしろ、例えば施策の一丁目一番地的な位置づけで1-1に掲げられている、ゆとりある暮らしを感じるまちづくりにしても、取組、具体的な事業が並んではいますけれども、計画を立てた当時はなかった北総線の値下げのような状況を受けて、もっと市として、グランドデザインといいますか、総合的な戦略の部分をもっと強めてほしいというような意見がすごく強かったと思いますので。

そういう意味でも、この審議会での評価というものが、個別具体的な事業の取組一つ一つだけでなく、「この目標を実現するためには、この取組だけじゃなくて、これら以外の取組みも必要なのではないか」というふうなのは、皆さんで議論するといろいろ出てきたかと思しますので、そういうフィードバック、要するに、5か年計画で見直していくものだと思うのですが、たゆまぬブラッシュアップができるといいのかなというふうには、すごく感じました。

来年度から取組1、2、3に加えて4をつくりましたとか、そういうのがあっても、本来は、31年度にも、審議会でも、39ページにありますけれども、やっぱりフィードバック、PDCAの、5か年単位という長い期間だけじゃなくて、もっと短い期間でスピード感のあるPDCAが回っていったほうがいいのかというふうには感じました。

【会長】

まさに御指摘のとおり、あるいは、これまでの議論の中にも出てきたとおり、一つは、それぞれのテーマについての少し包括的なものの見方というものが、どれぐらいできているのかとか、若い人たちがゆとりある暮らしをするといっても、特定の分野、施策だけでは、やっぱり実現できるものではないわけで、いろいろな関わりの中で捉えていくということが必要になってくるというのがまず一つと。

もう一つは、そういう取組目標に対して具体的な事業というものをやっていく中で、それぞれの事業の精度というものがどれぐらいあるのかどうか。さらには、その事業だけでは当然足りないものもいろいろあるだろう、じゃあ、その足りない部分というのは、市としては今、例えば人的にも、予算的にもなかなか厳しいとするならば、それがどう考えているのかという。

これも併せて、こうした評価の中で見えてこない、なかなか次につながらないというふうな御意見だと思いますので、非常に貴重な御意見だと思いますけれども、ぜひその辺は、この総括の中に盛り込ませていただけたらというふうに思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。今日出していただいた意見、後日取りまとめて市長に、この39ページのところに掲載をするとともに、市長にも伝えさせていただきたいと思いますので、今日のところは御意見いろいろ出していただければと思いますけれども。ほかにはいかがでしょうか。

【委員】

はっきりした、そんなに。自分の思うことなのですからけれども、今回、多分コロナ禍で、勉強会とかちょっと時間短縮だったりとか、説明会とかも以前より、もしかすると少なかったのかなという感じがしまして。今回の審議会の開催経過というのを見てみて、1回目のときに全体の説明をしていただいて、その後に勉強会をして、もう評価をするって形になったのですが。

自分としては、資料を読んで、読み込んでいけばいくほど、もっと聞きたいこととか、ここ、どういうふうになっているのかなというのが後から出てきてしまっているところがあって。質問も書くのですが、どこまで質問を書いて、当日に聞いたほうがきっと分かりやすいかななんて思うものもあったりして。ところが、実際に質問会、勉強会になると、なかなか時間的な問題もあり、質問ができなかったりしたところも今回ありました。

もうちょっと時間を増やすというのではないと思うのですが、自分で調べればというか、勉強すればするほど知りたい部分が出てくるなという感じが今回しましたので、どうしろというのではないのですが、自分の考えとしては、事前質問をもう少し増やそうかなというふうに改めて感じたりしたのが率直な意見です。ちょっとまとまりませんが、そんな感じでした。

【会長】

ありがとうございます。これは、これまでもこの評価を続けてきた中でも、なかなか時間が足りないねということも言われてきましたし、ましてや今年度はコロナ対応ということで、全体、縮小気味に進めたというところもあって、なかなか質疑に時間が割けられなかったというところはありますけれども。具体的にどうするかというのは後ほどの議題で、少しまた御意見頂ければと思いますけれども。その辺、もう少しやり取りをして、各委員がもっと理解を深めた上で評価をしていくということができるような、そんな工夫もできればというふうには思います。ほかにはいかがでしょうか。

【委員】

小学校区のまちづくり協議会についてアンケートを取りましたので。

小学校区が九つ、今あります。その中で6個ほど、まだできていないので、その支部長

宛てに一応アンケートを出しまして。全部の回答は見えていないのですけれども、一つの小学校区の回答として、質問が、小学校区まちづくりの必要性ということが一つ。これに対しては、各回答者は必要であるという回答をもらっています。

それから二つ目、小学校区まちづくりに取り組むことについてという点については、どちらかといえば賛成という回答。

それから三つ目、小学校区単位のまちづくりの参加についてということで、答えは、ほとんどのところが取り組めないという回答でした。

それから四つ目、まちづくりに向けた他団体、組織との協力、連携ということで尋ねたところ、情報が下りてきたものを連携することは可能ですというところが多いです。

それから五つ目として、諸団体、組織が地域で活動していく上で課題はということでは、自治会員と各団体の対話、交流がないということで、現状では分からないという回答。ほかのところも、このようなことがあるものではないかなという感じがしています。まだ取りまとめていないので、はっきりと分かりせんけれども、一応こういう回答が来ております。報告まで。

【会長】

ありがとうございます。それは何らかの形でまた公表されるのでしょうか。であれば、この報告書にどういうふうに反映できるか、後ほどまた事務局と相談させていただければと思いますけれども。

今回、我々が評価したことの一つに、小学校区単位のまちづくり協議会をどうするかということで、基本的にはC評価、まだまだ進捗的には遅れているということで、先ほど紹介いただいたような諸課題があるわけですけれども、この辺、さらにまち協というものの意味を、どういうふうに地域の方々に伝えられるかどうか。

やっぱり、まだまだ情報が伝わっていないという部分と、それから誤解されている部分もあると。つまり、これもどう地域ぐるみで考えていくかですけれども、いろいろな各団体が連携するというふうなイメージはあると思うのですけれども、個々の単位でやっている取組に、さらにまち協が加わって、負担純増になるというふうに、もし認識されているとすれば、多分、大いなる誤解なのだと思うのです。

むしろ負担を減らすために、どうやってもっと連携、協力、相互補完というものをつくっていけるかどうかというのが、本来の趣旨の一つかと思っておりますけれども、これがなかなかうまくかみ砕かれて現場に伝わっていないと。あるいは、そこをベースにして、どんなふうに自分たちの地域では連携つくっていけるのか、こういう議論がまだまだ膨らんでいないところもあるかと思っておりますので、その辺も今後の大きな課題だということで、この場でも確認を、共有をさせていただければと思います。ほかにはいかがでしょうか。

【委員】

平成31年度の実施意見のところに書いてある1個目の当審議会へのフィードバックの仕

方を工夫する必要があるとか、三つ目の項目にある、最後に、評価の後にフィードバックするというサイクルを構築する必要があるという、多分、毎年同じようなことが意見に出ているかと思うのですけれども。

例えば、後ろに載っている今年度の2022年度の施策評価シートも、最後の43ページとかに、8番で3次評価というのがあって、3次評価はこの審議会による評価だと思うのですけれども、9番の3次評価の改善意見への対応というのは、担当部署が私たちの評価に対して何をしたかとか、何をこれからしようとするかというのを書く欄ということでよろしいのですか。

これって、いつここに書かれることになるのですかというのが知りたいのが1点と。ちょうど今の時期にこの評価を出すということは、来年度の予算とかに間に合うと思うので、それにつなげていただけたらいいな、また来年度送りにしちゃうと、結局やる項目が同じだったりするので。

せつかくこの時期に我々の評価が出るとすれば、それに応えて、各部署さんでどういう改善策が必要かと、それにはコストがかかる部分と、逆にかかるから、ほかのことを削るとかいう、選択しなければいけない部分も出てくると思うので、その辺がどうリンクしていくのかというのは知りたいし、逆にリンクさせていただけたら、私たちがこの時期にあえて評価をした意味も出てくるんじゃない、次年度に生かされるんじゃないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【会長】

その点、事務局から。

【事務局】

今おっしゃられた43ページを御覧いただくと、空欄のところ、3次評価のところについては、例えば戦略1の1であれば、ここに載せるものが、先ほど申した13ページの外部評価結果というものが載ります。

これは何かというと、資料2のところに書いてあるものになります。資料2も併せて御覧いただければと思うのですが、この総合計画審議会による評価というものは、例えば資料2の1ページ目であれば、表の左側3項目が総合計画審議会の評価ということで、総合評価Bと、この三つの意見がここに記載されます。

そして、市の対応としましては、資料2の右側で、例えば令和4年度、5年度中に取り組む短期的なもの、また、中長期的に取り組むものに分けて、それぞれ対応として、この施策評価シートに記載して公表をしていくことになります。

ここはいつ決まり、来年度の予算にどうなるかということなのですが、7月の28日に総合計画審議会で見解を聞いて、その後、8月に、会長・副会長に意見の取りまとめ、確認いただいた後に、すぐ全庁に対応を検討するように依頼をして、8月中に各部でまず対応を検討した後に、各部長が集まって、本当にその対応でいいか、再度8月中に検討をして、

9月に市長も交えて、市としてこの対応でいいかどうかということを決めました。

ですので、資料2は、こういう対応にしましたということで報告になるのですが、例えば令和5年度までに取り組む事項というものは、9月の段階で決定していますので、それで、予算に必要なものは、9月に決定すれば、今10月のこの時期が来年度予算どうするか、のちょうど検討のピークなのですが、この1か月間で、これに対して各部で検討をして、今後、予算に必要なものを反映していくこととなります。

あとは、もう一つは、その後、来年度の施策評価のところ、ここの5年度までに取り組む事項は、実際にどうなったのかというのは、その施策評価のところ、今後どう変えていって、フィードバックを委員の皆様、意見がちゃんと反映されたかどうかとか、その辺りの評価をまた、来年度の施策評価で判断をしていただけるように、記載も工夫するように、内部で検討したいなと考えています。

【委員】

よく分かりました。ありがとうございます。

【会長】

この評価をどういうふうにフィードバックしていくのかということについては、これまでも短期的に、次年度反映できるかどうかということと、中長期的に時間をかけながらやっていくということで、描き分けながら対応いただいているというところはありましたけれども。今回もまず、このシートへの記載は、今、説明いただいたとおりになると思います。

例えば、この原案の4ページのところに、これまでの開催の経緯までは描かれていますけれども、これがどこまで、どういうふうな形でフィードバックされているのかというふうなことも、もし可能ならば記載をいただいて、どんなふうに我々の意見というものが生かされているのかどうか、検討されているのかどうか、そこのプロセスまで記載いただくと非常に分かりやすく、かつ、次にまたつながるのかなというふうにも思いますので、その点は御検討いただければと思います。

【委員】

先ほどお話しいただいたのでよく分かったので、これを受けての流れを、さっき会長がおっしゃったように書いていただくと、私たちもこれをやったかがあるというか、それが可視化されて、しかも市民の方もこれを見て、そうやって市の方が御努力されて、いろいろ話し合っただけというのが分かるので、ぜひお願いできたらと思います。よろしくをお願いします。

【事務局】

御意見ありがとうございます。まさに今頂いた意見は、この評価システムそのものの理念、PDCAのA、アクション、改善で、また、必要に応じてP、プラン、計画に戻すことが大前提になりますので、その見せ方につきましては、評価シートを工夫するととも

に、こちらの開催経過にも加えてまいりたいと思います。

【会長】

評価のまたあり方については、後ほどの議題でも、また御意見頂ければと思います。この総括的な意見について、ほかにもしございましたら御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

ここまで私も参加させていただいて、分かりづらい表現だったりとか、あと、ふわっとした表現とかも多かったです、そういう細かい部分とかが分かりにくい部分もあったのかなというので、そこら辺をもうちょっと明確な表記に変えていただけると、全員が分かりやすくて、例えば、ほかの市民の方たちが見ても、すごい分かりやすい資料になるのじゃないのかなと思いますので、そこを次回のところで強化していただけたら、私たちもすごい分かりやすくなるのかなというふうに感じました。

【会長】

ありがとうございます。非常に専門用語であったりとか、非常に分かりづらい用語も使われていますので、この辺、もう少し分かりやすいような言葉、表現、言い回しをお願いできればというふうに思いますし。また、併せて、これは個別の評価の中にもありましたけれども、どんな仕組み、流れでそれぞれの施策、事業が動いているのか。

例えば都市計画の話のときも、あれも一定の仕組み、手続方法に基づいて動いていると。でも、その流れがどうなっているのかということをお我々、知らなければ、どんなふうに意見を反映させればいいのかということ自体が、非常に宙に浮いちゃうというところもありますから、この施策はこういうふうに動いているのだというふうな説明をある程度加えられると、我々も、それから市民の方々も、御覧になって、これはこういう流れで動いているのか、じゃあこういうところで、こういう意見を言うことが有効なのだというのが見えてくると思うのです。

ですから、担当課はそれを当然、前提にして、実際動いておられるのでしようけれども、どういうふうに条例がなっているのか、あるいは手続になっているのか、仕組みになっているのか、これが見えてこない、なかなか生産的な意見にならないところもあるかと思っておりますので、その辺りも含めて、ぜひもうちょっと、これはシートの工夫なのかもしれませんが、改善を試みていただければということで、ぜひこれも意見として入れさせていただきたいと思います。ほかにもいかがでしょうか。

【委員】

今回、総合計画のこういう評価ということに携わってしまして、皆さんもそうだと思うのですが、自分の専門の領域について、あるいは、また、その立場を代表する形で参加している場合、大変関心もあり、内容も分かり、意見も出してくるのですが、そうじゃない部分については、なかなか一般市民として分かりにくいというふうに感じて、参加して

おります。

今日の総括という意味では、やはりテーマ自体が、なかなか分かりにくいというふうな御意見もあるなと思いました。一つは、この総合計画の戦略でしょうか。これは2014年ないし15年ぐらいに、議論をして決めたことであるという部分もあるのかなというふうに思うことと、あと、もう一つは尺度が、尺度ももちろん、どういうふうに決めたらいいねということで議論したのですけれども、そもそもよくできているか、できていないかというのは、何をもって我々委員として、したらいいのか。

分かりやすいのは、隣の町、印西や鎌ヶ谷に比べてどうだろうかというのは、割と分かりやすいのだらうと思うのです。あるいは、また、自分のいる職場の地域に比べてどうだよねとか、あるいは自分の育ったまちと比べてどうだろうねというような、感覚的なものも大きいのかなというふうには思っております。

一つ質問というか、これは行政がしっかりやっていく上で、市民の声を聞いていくということを、白井市は割に重視しているのだらうなと思います。いろいろな委員会があつて、その声を吸い上げるような形で行政を運営していくという姿勢は、大変いいことではないかなと。これもまた、他の市町村に比べてどうなのかというのは、ちょっと私自身も分からないのですけれども、まず、結構やっているほうではないかなというふうには思っております。また、学識、そういう先生方の声でも、そういう声があつたかなと思います。

そうした場合、例えば傍聴人も、議会の方が来られているわけですけれども、そういう意味では、我々、こういうふうに出されたものが、またもう一つ、行政を監視するという意味では、議会があるわけですけれども、我々のこういったものが、議会でまた取り上げられたり、あるいは、またそこで、またどうだったのだというような議論があつたり、そういった、その辺の二重の関わり方みたいなのがあるのでしょうかけれども、その辺というのは、この評価と議会での関係性なんていうのは、現時点で分かることであれば、少し説明していただければと思いました。

【会長】

その点、事務局からお願いします。

【事務局】

市議会と総合計画審議会の関わりという御質問だと思うのですが、例えば今回、本日議題とさせていただいております令和4年度の施策評価に係る外部評価報告書を本日御審議いただいて、まとめて後日、市長報告という形を経て、議会には定期的に報告、議会運営報告という場がありますので、そちらでまずは提供させていただくという形を取りたいと思います。

それに基づいて、必要に応じて、定例議会の質問や、あるいは個別に企画政策課事務局に質問があろうかと思うのですが、そういう対応になるかなと思っております。

【委員】

この総合計画が5年ごと、前期、後期ということであるのですけれども、それを議会で集中的に審議するとか、そういうようなことというのはあるのでしょうか。

【事務局】

策定の段階の御質問だと思うのですけれども、策定に当たりましては、もちろんこちらの総合計画、基本構想、基本計画が、議案という形で審議いただきますので、それに当たりまして、前回の後期基本計画をつくるに当たりましては、議会の特別委員会という場を設けさせていただきまして、いろいろやり取りをさせていただいたという経緯がございます。

【委員】

議会でそれが、承認事項だと思うのですけれども、その事柄について何か修正案とかいうようなものというのは、過去において出たりしたことはあるのかなというのが。ついで的に聞いて申し訳ないのですけれども、分かる範囲でお答えいただければと思います。

【事務局】

例えば後期基本計画をつくる時も、議会で特別委員会というのが編成されまして、そこで丁寧に説明をして、いろいろ意見ですとか質疑応答した結果、基本的に原案のとおりということで、審議会で答申いただいて、それを踏まえて市で決定したもののとおりで進んでおります。

ただ、議会から意見は頂いていて、例えば何か目標数値とか、指標が変わったりしたら、適宜議会には報告をしてくれという意見は頂いていますが、特に5次の話でいうと、後期基本計画ですとか総合計画について、基本的にはいろいろやり取りをした結果、案として、こちらで挙げた案として承認いただいているところです。

【委員】

分かりました。

【会長】

どうぞ。

【委員】

感想に近くなっちゃうのですけれども、39ページの平成31年度の実施意見というところを見ても、今これから、どういう意見にまとめようかというところで考えたときに、ほぼ近いようなものが出てきてしまう。そうすると、5年間で本当はいろいろと変わっていたり、前進しているものがあるとは思っているのですけれども、それが見えにくいように感じてしまうのです。

改善が分かりやすいように、行政側が一生懸命やっている改善が分かりやすいような表現の仕方をしないと、どこが変わってきて、どこが進んできてというところが見えず、また5年たっても同じような意見がまた出て、それを、じゃあどう改善したらいいのだろうというような形に感じてしまうということなのです。

なので、表現の仕方というのは、それを受けてどういうふうに変えてきたな、変わってきたな、それがまた新しい、時代とともに新しい課題も出てきて、こういったものも入ってきたな、こういったことは整理されてきたなとか、あとは長期にわたる、ものすごく長期にわたる事業もありますし、短期的に取りあえずやってみて、見直しを入れて、また変えていくというような事業もあると思うのですけれども。

そういうようなことがもう少し、市民が見たときでも、こういう点がすごく変わってきて、5年前の資料と見比べても、こういう点が違ってきたのだなというようなことが分かるように出すのが望ましいかなと思います。

【会長】

非常に大事なところで、先ほどから出ている、どうフィードバックして対応を変えていくのかということもそうですけれども、今の御意見はそれに加えて、改善履歴を残すということなのですね。

つまり、その履歴を残しながら、どの段階でどういう意見が出て、それに対してどう変わったのか、それがまたフィードバックされて、またどういうふうに変ったのかという、これを履歴として積み上げるような形で進めていかないと、結局、単年度で評価して終わっちゃうということに、下手をするとなりかねないというところもありますから。

改善がどういうふうにつとつながってきているのか、その延長線上で、また今後のことを考えていくということも問われるでしょうから、そういう改善の履歴という辺りも、少し考えていく必要があるのかなというふうにも思いますので、それもぜひ意見として盛り込ませていただきたいと思います。ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

【委員】

今の委員の御意見、私も大変賛同するところがありまして。39ページ、今年の話かな。31年度の話で、会長がおっしゃるように、履歴を重ねていく上でも、やはりどういう観点で評価しているかという物差しが、いい意味では、それぞれ市民意見で、市民視点で、多様性があるという言い方もありますが、やっぱり多様性は個々人で尺度を決めている、または個々人の立場があるので、これを統一した相対評価で見ると、これがどういう意味合いになるのかなというところが心配かなと思います。

例えば結果として、総合評価として、最終評価としてBとかCとか、AやBが合った場合いいのですが、Cが同じような並びになっていて、Cはやや劣っているとか、Bはないのですけれども、本当はCだとしたら深刻ですよね。深刻な状況がBと同じような扱いで報告されて、ここは、じゃあCってどうしたらいいのって、ここそみんなアイデアをさらに詰めていこうよとか、そういうようなB、Cを単に平準化して報告するというスタイルはどうなのかな。

逆にいうと、そもそもCをつけるというのは、よほど深刻な状況だというふうに、私はそう認識をしたのですが、私の点数のつけ方の立場だと、先ほど、別の委員がおっしゃっ

ていましたように、白井だけじゃなくて、割と他市さんの状況も見る人が多いものですから、割と相対的な中で、外部環境を含めた状況の中で、大分頑張っておられるなどというところで。いいか悪いかわからないのですが、甘めの点数がついているのですが。内部の絶対的な評価というか、個々人の理想があって、それに対して評価をするととなると、当然厳しい側にぶれるというか、振れることも多いと思うのです。

それは物差しの違いとか観点の違いで、だからこそルーブリックを提案したのですが。ルーブリックの位置付けは、あくまでも今年は参考ということなので、それを使われる方と使われていない方があって、私もそこが非常に曖昧で、この最終評価、どういう位置付けにしているかというのは、正直なところ戸惑ってはいるのですが。今後に向けて、これから議題の3番目ですかね、協議されると思うのですけれども、その辺は改善していくといいのかな。

報告からすると、Cがついていて、Bがついていて、BとC、同じ扱い、同じフォーマット、同じタッチで意向が届くのかいと、そんなところを単純に思いました。以上です。

【会長】

評価については、また議題の3で御意見頂戴したいと思えますけれども。今の委員のお話の中にもありましたように、評価をどういうふうにするのかという、A・B・C、それぞれの委員の立場で評価する側面もあるし、少し客観的な視点から評価する場合もあるし、あるいは審議会全体で評価するというところもあって。

どの立ち位置で、何を基準にして、どう評価するのかというのが、仕組みとしてまだまだ曖昧さがかなり残っているというところでもありますので、これ、どうするかということは、また後ほど御意見頂戴したいと思えますけれども。そういう評価のあり方について、さらなる改善を求めていくというふうなことは、この総括意見の中にもぜひ盛り込ませていただきたいと思えます。

【委員】

あと一つ、すいません。今後に向けての評価の議論していきましょうという議題の3なので、3次評価のそれぞれ尺度がばらばらの中をサムアップして、一番票が多いのがBだった、Cだったという、そこをどう解釈しているのかというのがとまどっているというのは、今のこの報告について、私、分からないところなのです。今後どうするかというより、最終評価の扱いがどうなのかというところで、ちょっと教えていただければと思います。

要するに、市側が最終評価をどう活用するのか。皆さんのばらばらな尺度の、ばらばらな観点の中のそれを最終評価というふう到一个の尺度になってしまうと、それはそれで個別に歩き出すわけですね。そうじゃなくて、全部の委員の方が、これだけばらつきあって、こういう意見があって、こういうふうになっているよというのを、それ全体、読んでいただいた上だったらいいのだけれども、最終評価だけで歩き出すと、結構誤解を受ける

かなという。

一般市民というか、多くのプロセスを知らない市民が最終評価だけを見たときに、Cがついているって劣っているのだよね、みたいなそういうふうに独り歩きしちゃわないかなみたいな、そこが心配しているところです。以上です。

【事務局】

御意見ありがとうございます。現時点におきましては、最終的なA・B・C・Dの評価、総合評価に基づいて、今後、この次の報告で市の対応方針であるのですが、そちらに記載しているような相対的なB、C、そこを基準として、実際、今、市内部ではどう対応していこうかと、そこを判断のよりどころとしているところでございます。

ただしながら、この報告書の中に、委員個人のそれぞれの意見、御意見も表記させていただいておりますので、こちらにつきましては、各部長、部、課で参考として、今後、それぞれ個別に、事業を進めるに当たって参考にしていくものと考えております。以上です。

【会長】

これをどう活用していくのかという部分も含めて、後ほどの評価のあり方の部分で、また御意見頂戴できればと思いますけれども。委員会としての評価、各委員の評価と、違ってくることもありますし、他市との相対的な評価、それから白井だけを見た絶対的な評価、この辺の違いもまたいろいろ出てきますから、どんなふうに評価の中で考えていくべきかということは、今後引き続き検討する必要があるということは、確認させていただきたいと思います。

【委員】

今の評価の話をちょうど受けて、評価の最初に、私もちょっとお話しましたが、多分、ほかの委員さんもそうだと思うのですが、単にAなのか、Bなのか、Cなのかということをお伝えたいわけではないと思うのです。

我々としても、このレポートを見たときに、我々が伝えたかったことは、外部評価結果で提言したことであったり、各委員からの意見だったり、これを我々、皆さんとしては市に伝えたかったということだと思っているので、結果的にBなのかCなのかというのは、かなり、どんなに客観的な尺度で、こう判断したらB、これだったらCなのだと、あれだけ綿密な評価基準が出されていても、やっぱりBなのか、Cなのかよく分からないし、みんなばらつく部分はあるのですが、結局、A、B、Cのアルファベットよりも、この付記されている意見の方こそが我々としては大事なんじゃないかなというのが、今のお話聞いて、すごく私は思いましたというのが一つ。

あともう一つは、委員もお話しされていましたが、我々も、一市民としてまず参加してみて、こういう取組があったのを初めて知りましたというところから勉強していくことになるので。確かに現実問題として、年に4回くらい、皆さん、お忙しい中お集まりされて、この施策をAグループ、Bグループというグループに分けて、いろいろ質問して

いきながら、自分なんかは、これをP D C AのPとDがどうか、消化して行ってチェックすると、このぐらいの、1グループ2施策を年に消化するのが精いっぱいだと思うのですけれども。

ただ、そうなると、今年度評価した4つの施策については、先ほど、今年の7月に提言したことは、令和5年度にも反映できるような形で各部局に共有されましたということであれば、逆にいうと、今年度議論しなかった4つの戦略については、別に令和5年度に反映がされていないということなので。

我々が1年間で8つの施策の議論を消化できるかどうかというのは別問題として、今これだけ目まぐるしく外部環境が、コロナ禍から北総線値下げまで、ネガティブな要素からポジティブな要素まで、これだけ目まぐるしく変わっている中で、そのスピード感でいいのかなと。もちろん5か年計画の見直しなので、まず今年4つ、次の年、残り4つみたいな感じで、最初は考えられたのだと思うのですけれども、それで果たして結果がベストになるのかなというのは、ちょっと思いました。

あとは、私が不勉強だということも有的のですけれども、いろいろなことを提言させていただいた上で、後からよくよく、さらにあの分厚い資料を読み込んでみると、戦略1-1の議論のときで、ここができていないじゃないかと言ったことなどが、実は戦略2の2に書かれていたことを後から知ることあったりとかして。これ、個別の1の1だけとか、1の3だけという議論だけで語り切れない部分が結構あるのだなということを感じました。

3-2の地域拠点でつながる健康なまちづくりのこの議論とかも、いわゆるにぎわいのソフト面が、この施策から作られる構図なので、3-1で掲げているにぎわいはつまるところハード面の議論であって、ソフト面についてはこっちにあたりるので、本当に相互にもものすごく関連しているので、一つ一つ縦割りで見ているとこの評価軸というのは、どこまで正しいのかと。

結局、縦割りで一つ一つチェックしてくださいというのは、市としてはそういうふうな要望なのだろうと思うのですけれども。皆さんの議論を聞いていても、全体像として見ているので、結局、気がつく議論は、後から見返すと、これ、戦略2の2にも関わったのかなとか、戦略1のほうに関わっていたのかなということがすごくあるので、縦割りで見ていくことのよしあしみたいなものも、我々目線からすると、すごく感じました。

結局、全部が白井市のことなので、結局ここを起点にして、この議論を皆さんとディスカッション始めたけれども、あそこが気になる、ここが気になるというところで、やっぱり広がるわけですね。それは全て市にお伝えしたいし、市民として素直にこうしてほしいという要望なので、それはスピード感というか、これ今年、これ来年とかじゃなくて、反映される仕組みがあるといいかなというふうに感じました。

【会長】

4事業・4事業で分けて評価するということではやってきておりますけれども、今、御指摘のように、非常に状況がどんどん変わってきているという中で、少し違ったほうとも考え得るのではないかということで、この辺は少し、評価のあり方として考える必要がありますけれども、御指摘のとおりかと思えます。

さらには、どの取組がどのほかの取組と関連しているのかということは、総合計画上は、大分横断性ということ意識して立てつけをつくるようにはしてきていますけれども、まだまだそれ自体が不十分なところもちろんありますし、その横断性というのが、評価の部分でどういうふうに捉えられているのかどうかという部分は、まだまだなのですよね。

ですから、先ほどから改善点をフィードバックしていくと、そのあり方ももちろん問われているところですが、横断性がどんなふうにして問われていて、これまでの取組でどこまで横断性が進んだのか、進んでいないのかという、そういう視点から評価していくということも問われるところかと思えますので、この辺も今後の改善点として、ぜひ盛り込ませていただきたいと思います。

まだまだ伺いたいところもあるのですが、1名の委員が11時半までというふうに伺っておりますので、後ほどの評価の部分で、御意見、ぜひ頂戴したいところもありますので。

【委員】

さっきの意見の中に含めさせていただいたつもりですので、31年度の意見で、3番目とか、6番目とあって、今でもそのとおりだなと感じています。もし時間切れになったら、すいません、その3番目の点とか、6番目の点というところをぜひお願いしたいなと思います。

【会長】

分かりました。

(2) 令和5年度の外部評価について

【会長】

議題3を先に行いたいと思います。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料3に沿って説明。

【会長】

来年度に向けてということで、一つは一連の流れですね。基本的には今年度と同じような形で、4施策について進めていくということになりますけれども、先ほどから、もう少し勉強会とか、やり取りする時間を増やせないかという御意見を頂戴していますけれども、その辺りも含めて、まず御意見を頂きたいというのと。

それから評価基準ですね。先ほどから、各委員としての評価、それから全体としての評

価、あるいは白井市のみの評価、あるいは他市との比較の上での評価、いろいろな側面がありますけれども、評価基準のあり方について、もし御意見等があればお願いをしたいと思います。

【委員】

先ほどもちょっと申し上げたことと重なるのですけれども、スケールをどうやって合わせるか、着眼点をどうやって合わせるかって、なかなか難しいですよ。今回、参考資料の3番に入れていただいた、これは主に協働の観点が、協働、非常に重要ですので、中心のルーブリックかなというふうに解釈をしていますけれども。

全般的に、今回の評価は、協働のあり方そのものも当然入るのですけれども、各施策の専門性だ、個別性とかといういろいろなものが入って、それも一緒になって評価されているので、先ほど申し上げたように、それを最終評価として、最終評価が独り歩きをしてしまうというか、そういう経緯知らない方がそれを見たときに、市民がどう見たときに、どう思われるかなという、そこが心配、申し上げましたが。

そうすると、勉強会をいっぱいして尺度すり合わせて、ルーブリックを精緻につくって、点数も、こういうときにはこういうふうな点数のつけ方するのですよという、脇に置きながらやるというのは、一個あると思うのですけれども、そうではなくて、例えば今のような、今回のようないろいろな視点をそのまま入れ込みたいということであれば、あまり最終評価の点数、CとかDとかBとかというのは、ほとんど最終、参考程度だよといって、今の各委員の視点からの点数と評価、評価一個一個の意見をできるだけ詳しく記載する。

そのときに、もしそういうふうに、今あんまり尺度を決めないでやるとすれば、各委員のスタンス、先ほど申し上げたように、私の場合だったら、複数の市町村を見たときに、また、全体的に見たときに、白井市ってなかなか優れていて、白井市にこういう課題があるにもかかわらず、ここの部分だけで取り組んで、それがうまく進まないとしても、その状況すら、結構頑張っている状況だというふうに、私、そういう部分で理解していたところが少なくないのですけれども。

そういうような委員御自身のスタンスを書く場所を書いておいていただければ、その方の評価を見るときに、それはこういう観点で、こういう視点を重視されて評価されているCなのだな、Bなのだな、Aなのだなというふうに分かるかなと思います。だから、共通尺度をつくるか、少しそこは曖昧にした中で、御自身の、各委員のスタンスを詳しく書く欄を作って、今の状況で進めるか、どちらかかなというふうに今のところ思っています。以上です。

【会長】

共通尺度というものを改めて明確にしていくのか、それとも、それぞれの委員が、自分はこのところを重視して今回こういう評価をしましたということクリアにしていくというふうなことで。そうすると、なかなか全体としてどう取りまとめるかというふうな

難しさは残りますけれども、それぞれ出されている評価というものが、どういう視点で出されたのかということがクリアになっていけば、実績の部分でそれを反映させていくと、検討につなげていくということは、少し実質化につながることもあるかと思いますので、それも今後、検討していただければというところかと思います。ほかにいかがでしょうか。

参考資料の3にあるこの表、かなり細かく作っていただいていますけれども、それぞれの評価項目、どこに注目しているのかということは、ある程度描かれていますけれども、どういう立ち位置で、何を基準にしてAとかBとかというふうにするのかということが、まだ分かりづらいところがあるので、この辺、もう少しクリアにさせながら、常にこの事業はこの表に照らして、こういうふうにしてこの評価にしたということが示せるように。

例えばもうちょっと簡略化して、評価シートと連動させて、委員はこの事業については、この評価項目のうちに、これとこれとこれを選んだというふうなことが、例えば分かるように、そういうふうな工夫の仕方もあるかとは思いますが。この辺、もろもろ検討した上で、方針固める必要があるかと思いますが、いずれにしても、この評価基準、どういう立ち位置で、何に注目して、どういう評価を出すのかという辺りが、もうちょっとクリアになるような改善を検討できればなというふうには思います。

ほかにいかがでしょうか。先ほどのフローも含めて、御意見頂戴できればと思います。

【委員】

評価が、A・B・Cが独り歩きしてしまうというのは、すごくあると思うのですが、言葉ってすごく曖昧なので、その説明は必要だとは思いますが、その曖昧な文章の中に評価がA・B・C・Dって、そこだけが評価基準としてあるので、そこが目立ってしまうというのが弱点なのかなって、すごく思っています。

だったらもうちょっと、基準はA・B・C・Dだけじゃなくて、何かを、例えば数値で達成度を書くとか、前も多分、この事前の評価シートだったら、6番の1次評価とか、5番の施策推進コストとかで、数値で少し当てはめたのが、多分それに該当するのかなと思うのですが。これだけでは多分当てはめられなくて、たしか前の委員がいらっしまったときも、なるべく相対評価でやってほしいみたいなことをずっとおっしゃられていたのを今思い出しているところなのだと思います。

A・B・C・D評価だけじゃなくて、ほかにも違う視点で、数値化、達成度とか、達成基準がどのぐらいとか、そういうものがもしあれば、A・B・C・Dだけが独り歩きしなくて済むんじゃないかなというのは、とても感じるのかなと思います。ただ、それを、じゃあ何がいいですかって今聞かれると、今、答えられないのですが、ちょうど慣れてきた頃に、またこの会議が終わってしまって、また来年に行くというようなパターンがあるのは事実なので、せっかくなので生かせたらなと。

この評価基準も、下線引いていただいているので分かりやすくはなっているのですが、でも、その下線書いてくださった部分でも、その基準というのは一人一人違うので、そこが

多分、さらに曖昧なところになっているのかなとは感じました。以上です。

【会長】

この評価基準と評価シートがうまく連動するような形が非常に望ましいというのと、あと、各委員が評価するに当たって、これはBかな、これはAかなというふうにどうしてもなってしまう、私もそうですけれども、なってしまうところがありますけれども。

ある程度その評価をするに当たって、例えばこの評価基準と連動させて、こういう理由で私はAという評価をしましたというふうな、理由をある程度明確にできるような評価シートにすると、その人はそういう視点で評価したのか、つまり、例えば他市との比較の中で見ると、非常に白井、頑張っているじゃないかというふうな評価の仕方をする場合もあるし、例えば子育てのあり方で、まだまだ全然足りていないのだというふうな視点で評価するという方も、当然いるわけですから。

どの視点で評価をしているのかということが、ある程度理由を選択できるような形にして、理由書けと言われちゃうと、また結構大変な作業になっちゃいますけれども、少しこの評価基準と連動させて、自分はこういう理由でもって、こういう評価をしているのだということが明確にできるような、そういうシートも、もし可能であれば、ブラッシュアップ図っていただけるといいのかなというふうに思います。どうぞ。

【委員】

前回もお話ししたのですが、評価シート、この評価基準でとても辛めというか、市の事業に対する理解度とか認知度が足りない中で、自分がなかなか情報も得られない上、ホームページを見ただけでは、こういった事業に対する経過も出ていないため、結果的にこういう評価になってしまったものです。

自分はその評価に当たって、この基準の欄を作成し、各施策の事業がありますので、例えば、定住だとか、住みやすいまちとかいろいろな項目を羅列して、それに対してある程度評価をつくって、最終的にまとめたのです。ですから、本来だったら細かく評価しながら評価シートを作れば、委員の評価って分かりやすいのですけれども、限られたシートで提示すること、またこの評価基準で考えると、なかなかそこまで、評価を分かりやすく説明できなかつたということ、今回、感じています。

例えば目標値がないと、どこを判断していいのかなっていうときに、このA・B・C・Dの評価基準ですかね、基準を基に評価したので、分からないことに対して、もしくは、あらかた事業が達成に近づいているといったところで、BとかCとかに困惑し、目標値がないと評価できないかなということで、Cになってしまっています。

市の行政について、いろいろ詳しく認識度がある委員には、進めていること自体が分かるので、前回も言われたとおりなのですけれども、実際には、市はもっとそれより進んでいるという認識あると思うのです。私はその情報がないので、そういったことが反映できなかったもので、結果的にこういう評価になってしまいました。

今、会長が言われたように、細かく、自分なりに評価をして、もしくは、その評価をまとめて添付することではないけれども、そういった何かしらの方法を考えていかないと、やはり評価だけになってしまいます。また、市の情報発信が少ないのではないか、それに加え各事業がどういうふうに表示されているか、市民に伝わっているかとか、それが分かりづらいのではないかと。

その辺も含めて、来年度への対応もあり、Bグループでは、情報発信と伝達の工夫をしていただきたいというのが、皆さんの意見でありました。そこでうまく市民と行政の間を縮めていかないと、なかなか評価とか、施策に対する認知度が足りなくなってしまう。そこを考えながら、評価をまとめたところから検証し、来年度に結びつけていただければありがたいと思います。

【会長】

どういうふうに評価というものを次につなげていくのかということが、ある程度プロセスとして、あるいは履歴として明確にできるかどうかということが、すごく大事ですし、御指摘いただいたように、やり取り、やっぱり我々、読めば読むほど、もっといろいろな視点が見えてくる。情報も増えてきて、もっといろいろな関連性の中で評価したいというふうに思えてくる場所もありますから。

今のフローのやり方ですと、5月に1次・2次評価の結果の説明を我々が受けて、7月に勉強会、その日にワークショップもやるという形になっていますけれども。

例えば5月の説明の部分をもうちょっと充実させて、我々ももうちょっと踏み込んだところで理解できるような場にして、それを踏まえて、さらにその2か月後の7月に、改めて勉強会プラスワークショップというふうな形にできれば、我々もかなり理解を深めて臨むこともできるかと思っております。その辺、特に5月あたりの進め方、これをもうちょっといろいろな情報を我々が頂いて、少しやり取りするなりなんなりということを重ねることができれば。

やっぱり1回だけで勉強会やって、ワークショップだと、なかなか意見出せないところはあると思いますので、もうちょっと5月、あるいは1月の段階ですかね、どの時期にどう開催するかといったら、またあれですけども、基本、今年度と同じような形でいくのであれば、この1回目、2回目の部分、もうちょっと工夫して、7月の勉強会、ワークショップに臨めればというふうにも思いますので、それも御検討いただければと思います。

【委員】

今年、意見交換というか質問ですか。質問をしたときの時間が、もうちょっとあったらうれしかったなというのは思っています。聞くと、そんなこと実はやられていたのだとかいうことを気づいて、だったらちょっと変えてみようかなとか、じゃあこっちはどうですかということ、こんなことをしていました、この事業評価の、事前評価では書かれていなかったり、そこでは読み込めないことが、伺うと浮かび上がってくるということが結構あつ

たので。長ければいいものではないのですけれども、もう少しだけ、例えば、あとプラス30分でもいいのですけれども、少しあるといいかなというのは、感じたりはしました。

【会長】

どうぞ。

【委員】

会長がおっしゃったように、5月のときの勉強会が、今回、たしか絵とか図入りのカラフルな資料があって、すごく分かりやすく、それが見やすく、良かったのです、まず。

ただ、説明をしていただくのに、全部、多分4施策かだったか、全部一遍にいただいちゃったので、すごく見やすくはあったのですが、そこをもうちょっと2回ぐらいに分けていただけると、もう少し理解できて、そこで質問がまたできて、さらにその後、この事前質問が、さらに分からなくて出せると、もう少し評価、勉強会の際にすんなり入っていけるかなというふうに思いました。なので、その辺を考えていただけたらうれしいと思います。

【会長】

これは、これまでの蓄積もそうですけれども、市民目線で質問するということは、そこが分かりづらいということなのですよ。だから、どう見せなきゃいけないのかということ各担当課が考えなきゃいけないということなのだと思います。だから、それも年度を追うごとに、そういう意味では詳しく、分かりやすく説明するというふうになっていかないと、こういった評価をやっている意味というのは半減しちゃうので。各課としても、どういうふうな質問が出ているのかというのは、同時に、それをどういうふうに見せなきゃいけないのかという問いかけでもあるというふうな認識は、ぜひ庁内でも共有はしていただければというふうに思います。評価について、ほかに、どうぞ。

【委員】

先ほど委員もおっしゃっていましたがけれども、C評価だとやっぱり独り歩きしがちだとおっしゃっていましたがけれども、C評価にいい意味で込めたこちらの思いとか、例えば今回、4施策のうち、一つの施策にCが出ていますけれども、議事録を拝見すると、本当にこの事業では駄目だということよりは、重要な事業であるだけにもっと周知を図り、もっと内部でもいろいろな情報を共有しながら進めていってもらいたいというふうな、期待を込めてというところでのCですというふうに評価されていましたがけれども。

やっぱりCは、ほかの委員さんのコメントにもありましたけれども、期待を込めてCとさせていただきますと書かれていますし。あと、AとかBの評価って、期待を上回るという評価基準が示されているじゃないですか。私もそうですけれども、市民の皆さんって、期待すごいかけていますので、白井の市民の委員の一人として、もっといい町にできるのではないかなと思っているので、そうした期待感を上回るというのは、なかなか行政の方々も大変だと思うのです。期待を上回っているか、どうなのかという評価軸で評価されてし

まうと。

基本的に、世論調査とかもそうですし、基本的に厳しめに評価するじゃないですか、引き算評価といいますか。なので、期待を上回るかどうかといわれたら、私も、例えば個別ではC評価つけたものとかも、もっと期待しているのですというふうにした部分もあるので、そういう意味でも本当に、Aなのか、Bなのか、Cなのかという部分の定義と、あと、そこに付されたコメントというのは、重要なのかなというふうに感じました。

だから、勉強会のとときとかで、ここのコミュニケーションが深まれば深まるほど理解が深まるというのは、私もすごく同感で。1-1の議論のときに、若い世代が魅力を感じる魅力って何か、白井の魅力は何かとなったときに、やっぱり緑が豊かで、緑が豊かでというところが魅力で、それで1-1なのだったら、じゃあ何で公園、老朽化した公園のメンテナンスの施策だけなのって。里山の自然とかいろいろあるから、そっちはどうなのといったときに、それは2-2ですよというふうに言ってほしかったのですよね。そういうふうなキャッチボールが深まればいいかなというふうには、すごく感じました。以上です。

【会長】

やり取りをしっかりとできるような形にすると、もっと実質化すると思いますし、先ほどから評価の独り歩きということも出ていますけれども、これも、先ほど委員が、議会も含めて、この結果がどういうふうになるのかというお話がありましたけれども、下手するとC評価、これはあまりうまくいっていないのだな、じゃあやめてしまえというふうな流れになる可能性もあると。

白井はそんなことないと思うのですけれども、一般論的にはそういうふうになるのです。評価の低いものはやめてしまえというふうなことになる。だからこそ、単なる結果だけではなくて、それがどういうふうな意味で厳しい評価を与えられているのか、むしろ大事だからこそ、そういう評価につながっているのだという、そういう実質論が、執行部だけではなくて、議会も含めてしっかりと共有されるかどうか、そういうサイクルをしっかりとつけていけるかどうかというのも、大きな一つの課題なのかなというふうに思います。

ほかに課題について、御意見ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、評価については、まだまだ、次年度どこまでできるかどうかというのは、また事務局で御検討いただければと思いますけれども、可能な範囲で改善を図ることができればというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 外部評価意見への市の対応方針について

【会長】

それでは、先ほど飛ばしました次第の2番目、外部評価意見への市の対応方針について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料2に沿って説明。

【会長】

今日、個別に議論していく時間がないのですけれども、審議会からの意見に対して、各部局でこういった形で対応していくということをまとめたということですので、その一覧が資料の2のような形になっております。全体について、もし何か確認しておくべきことがありましたら、御発言お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

先ほどから御意見を頂戴していますように、出た意見に、市としてはこうしますよ、これがまた令和5年度でどういうふうに進んだのかということを確認する。少なくとも、この任期の中では、その辺りまではカバーするというにはなるとお思いますので、令和5年度の対応というものも、今後またどういうふうになっていくのかということは、引き続き注視をしていただければと思います。

と同時に、ぜひ事務局でも、審議会として出た意見、それに対する各部局のフィードバック、さらにその結果に対するまた意見という、これまでやってきた蓄積というのを少し一覧にして、我々、意見、次年度、また最初のときの説明資料の中に、そういったものも準備いただいて、この案件については、こういう形でこれまで意見が出されて、こういうふう各部局の、部署でも改善を図ってきて、今こういう流れにきているのだという、この辺も分かったら、また評価というものも少し違ってくるころもあるかとお思いますので、お手数ですけれども、そういった資料が可能かどうか含めて、御検討いただければと思います。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、先ほど議題の一つ目で確認をし忘れてしまったのですけれども、この総括的な意見について、今日いろいろ御意見頂戴しました。この取りまとめについては、この後、審議会を開くということは予定されていないので、今日出た御意見をまとめさせていただいて、事務局でまとめていただいて、それを会長と副会長で、最終的に確認をさせていただいて、それを39ページのところに反映させて、その上で市長に提出をするというふうな形にさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。後日、改めて市長に報告するという機会がございますので、それに間に合うように、準備を進めさせていただきたいと思います。

(4) その他

【会長】

それでは、議題の三つ目までが終わったということで、最後、議題の4、その他ということで、事務局からお願いいたします。

【事務局】

事務連絡になりますが、来年度の予定につきまして、この後、今頂いた意見で、5月をどうするかですとか、会長、副会長と相談させていただいて、その後、皆様に、来年度の予定をお伝えさせていただければと考えております。

また、先ほど申したとおり、皆様の任期がちょうど来年の11月ということで、恐らく来年の今頃、評価結果をどうするかといったところで任期は終わるかと思えます。その後の市の流れとしますと、来年度の後半から、今の5次をどううまく進めるかとともに、6次をどうするかといったところも入ってくるかと思えます。

ですので、来年度、外部評価は進めていく中で、6次に向けての申し送りですとか、そういったことがもしあれば、御意見も頂ければ、5次と6次がぶつ切りにならないように、今の委員の皆様から引き継げることがあれば、その辺りも反映させていきたいと考えております。

また、今回、いろいろと宿題を頂いておりますので、適宜、会長、副会長に相談をさせていただきながら、報告書も、これも毎年のぶつ切りにならず、流れになるようにという、そういったところも今回、委員からの意見頂いておりますし。

また、評価基準や、これまでの蓄積ですとか、これから検討し、適宜、会長、副会長と相談させていただいて、早く報告したほうがいいものは、皆様に共有させていただければと考えております。

恐らく、予定では来年のスタートは早くても5月からなのかとは考えておりますので、恐らくスケジュールの御通知は、年が明けてからになると思えますので、しばらく間が空いてしまいますが、引き続きよろしく申し上げます。

【会長】

次年度のことについては、また年明け、段階的に案内があるかと思えますので。まだ、あと1年任期続きますので、引き続きよろしく願いをいたします。

と同時に、この総合計画審議会は、一つは今やっただいている重点施策の評価、外部評価という役割がありますけれども、もう一つは、今、事務局からもありましたように、総合計画そのものを、これからまたどういうふうに進めていくべきかということで、いろいろな意見を言うということも一つの大きな役割になっております。

今は、第5次の後期の計画が進んでいるところですが、第6次という、基本計画だけじゃなくて基本構想も含めた、全般的な見直しを図った新たな計画を立てていくということで。令和8年度スタートですから、その数年前から準備というのは進みますけれども、今こういった評価をやりながら、ここはもっと根本的にフレーム変えていくべきだとか、もっとこういうふうに進めていくべきだという意見、いろいろ委員の中におありかと思えますので、第6次の策定につながるような意見というのも、次年度は随所に、いろいろ伺っていければというふうに思えますので、それも併せて御協力いただければと存じます。

ということで、令和4年度第4回の白井市総合計画審議会については、以上で閉会とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。